

理事長挨拶 理窓会の皆様へ

学校法人東京理科大学 理事長 本山 和夫



春の日和に身も心も浮き立つ候、理窓会の皆様におかれましては、ますますのご隆盛のこととお慶び申し上げます。国内外ともに様々な変革が求められている現在、大学における研究・教育の重要性は増しており、本学が果たすべき責務もますます大きくなってきています。そのような中、つつがなく新年度のスタートを切ることができたのも、理窓会各位のご支援の賜物と改めて感謝しております。新年度の始まりにあたり、法人を代表いたしまして、ごあいさつ申し上げます。

昨年度を振り返りますと、本学にとって契機となる一年だったと改めて実感いたします。中でも同窓である大村智先生のノーベル生理学・医学賞の受賞は、国内私立大学出身者としては史上初の快挙であり、本学にとっても大変励みになる朗報でした。同窓生の活躍は、本学にとって大変喜ばしいことです。

葛飾キャンパスのキャンパスモールには、ヨハネス・グーテンベルク(1455年活版印刷技術の発明)から山中伸弥博士(2006年iPS細胞の作製成功)にまで至る、科学史上輝かしい功績を残された先人の名を刻んだ銘板が埋め込まれています。その中に今回、新たに大村智先生のお名前を刻むことになりました。大村先生の業績を末永く歴史に刻むとともに、本学学生の目標・励みになることを期待しています。また、大村先生からは多額の寄付をいただいております。本学ではこれからの研究・教育の発展に活用させていただくことで、大村先生の想いに応えてまいりたいと思っております。

また昨年度、世間を賑わせた科学の話題には「113番元素」の発見があります。昨年末、理化学研究所の森田浩介九州大学大学院教授の研究グループが発見した「113番元素」が、国際機関に新元素であると認定され、欧米諸国以外の研究グループとして初めて日本に命名権が与えられました。こ

の発見には、当時理工学研究科物理学専攻に在籍していた学生が研究グループの一員として、偉業に貢献しています。本学では、学生が各研究機関において研究指導を受けられる「連携大学院」の制度があり、今回、この制度を利用して理化学研究所で研究に励まれていたということです。学生のうちから世界の最前線の研究に従事できることはもちろん、科学史に残る功績に貢献できることは、学生の日々の努力の賜物であると思います。本学学生の努力に改めて感じ入る嬉しいニュースでした。

今年度より学校法人東京理科大学は、新しい一歩を踏み出すこととなります。

4月1日より山口東京理科大学が公立化し、山陽小野田市立山口東京理科大学として新しくスタートしました。1987年に山口の地で開学してから約30年、新しい舞台に立つこととなります。東京理科大学の研究・教育の質を引き継ぎ、地域全体のニーズを把握できる行政の強みを取り入れることにより、地域により根ざした大学になることを願っています。また、公立大学に移行した後も、本学とは研究・教育での連携を継続する予定です。

同じく4月より、東京理科大学の経営学部も新しいスタートを切りました。既設の経営学科の定員を240名から320名に増員し、新たに定員160名の「ビジネスエコノミクス学科」を開設いたしました。同時に、長年お世話になった久喜の地を後にし、神楽坂キャンパス富士見校舎にて新学期を迎えました。国内外の企業が集積する都心への移転によって、企業との交流、経済や文化などの最新の情報を手に入れ、東京の街を学びの場として、経営を考えてもらうことを目指しています。

また、本年3月からはMIT（マサチューセッツ工科大学）スローン経営大学院のマイケル・クスマノ教授に本学特任副学長に就任していただきました。クスマノ先生は、ハイテク産業の分野において世界中の主要企業のコンサルタントや取締役なども務める斯界の権威であり、その豊かな経験と高い見識をもとに、さらなる経営学部の発展に助言をいただきます。新・経営学部の講義ではMITスタイルを取り入れており、例えば新校舎の教室では、一部の教室で机の配置を従来のような横並びではなく、U字型に配置することにより教員と学生の「対話」を意識した構造とするなど、新しい要素を取り入れています。

工学部においても「情報工学科」が新しくスタートします。これまでの情報工学というと、情報処理の性能などの向上に取り組んできましたが、世界中で大きな変革がある中、情報をいかに社会のしくみに生かしていくかという、「ソフトウェア」の考え方がより重要になってきています。工学系学科が集まる葛飾キャンパスに拠点を置き、他の工学分野から刺激を受けつつ、ネットワーク技術とソフトウェア技術を融合した新しい情報工学を目指していきます。

私も1972年に理工学部を卒業してから40年以上が経ち、母校の良さを改めてしみじみと感じる昨今です。最近では、学生時代の仲間たちと同窓会を開くことも多くなりました。かつて紅顔の青年たちも、いまや白髪の者たちばかりですが、ひとたび集まれば、気持ちは当時のままです。卒業後、皆それぞれの道を進んできましたが、その根っこには東京理科大学で過ごした日々があります。

このたび本学HPに、卒業生向け特設WEBコンテンツ「理科大思い出アルバム」を開設いたしました。このサイトでは、講義や実験の様子、イベントやキャンパス風景など、本学で保管している貴重な各時代の写真を取り上げ、誰でも閲覧することができます。本学での思い出を、アルバムをめくるように楽しんでいただきながら、同級生や先輩、恩師との交流を深めるきっかけとしていた

だきたいと思います。同窓各位から写真を投稿していただくことも可能ですので、皆様からのご投稿により、さらに交流促進の場になることを願っています。懐かしい校舎風景、学生ファッションなど、一枚の写真を見ているだけで本当に多くの思い出が浮かんできます。

昨年の理事長就任以来、全国各地の理窓会にお招きいただきました。多くの同窓の皆様と直接触れ合う中で、改めて感じたのは母校のありがたさです。同じ大学で学んだというだけで、言い知れぬ一体感があります。「単位を取るのが大変だった」「今でも実験の時の感動は忘れられない」という些細な思い出にも、心から共感できるというのは、実にありがたいことだと思います。理事長に就任し改めて母校の様子を見つめ直したとき、やはりそこにはかつての理科大があり、研究・教育・学生生活における伝統は脈々と受け継がれていることを実感します。

昨年度の卒業生も、多くの企業・官公庁などに就職しました。本学の伝統が社会から信頼され、各界の最前線で本学卒業生が求められていることに、改めて強く誇りを感じるところです。このような本学の伝統を守り、さらに発展できるよう、本年度も尽力する覚悟を新たにしております。

同窓各位におかれましては、引き続き、本学にお力添えをいただけますようお願い申し上げます。各地の理窓会にご参加いただくほか、ホームカミングデーにお越しいただく、また、各キャンパスに遊びに来ていただくだけでも構いません。同窓各位と手と手を取り合っこそ、本学の真の発展があると信じておりますので、今後とも、皆さまのご見識・ご経験からご助言を拝聴し、まい進してまいります。

末筆ながら、同窓各位のご健康とご多幸を心よりお祈りいたします。